



川崎大師ロータリークラブ 週報

会長 須山 文夫
副会長 石渡 和治
副会長 星野 祐治
幹事 八尋 匡彦
SAA 小林 勇次

例会日:毎週水曜日 PM12:30~
例会場:大本山川崎大師平間寺信徒会館
事務局:〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F
Tel:044-277-7569 Fax:044-288-8550
URL <http://www.kawasakidaishi-rc.com/> E-mail:daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp

第2248回（本年度 第16回）例会 令和元年11月13日 一晴一

- 司 会 星野祐治副会長
- 点 鐘 須山文夫会長
- 斉 唱 「国歌」「奉仕の理想」

卓話者紹介 須山文夫会長
特定非営利活動法人 Learning for All 石神駿一様

ゲスト紹介 須山文夫会長
米山奨学生 曹 実様



ご挨拶 米山奨学生 曹 実様
奨学金をいただきありがとうございます。
学生時代最後の試験と卒業後の就職をするための準備をしています。外国人として日本で就職することがきっと難しいと思います。給料などは全く考えなくて、聞いてもらえる事だけでもとても難しいです。
自分の夢のために最後まで頑張りたいです。
皆様のご指導を受けさせていただくと光荣です。
ありがとうございました。

来訪ロータリアン紹介 秦 琢二親睦活動委員長
川崎中央RC 関 進様

- 会員の入会祝い
- 鈴木幹久会員 1987年11月4日
 - 嶋崎嘉夫会員 1995年11月1日
 - 猪狩佳亮会員 2014年11月19日（入会5年目）



- 星野祐治会員 2016年11月16日
- 八尋匡彦会員 2016年11月16日
- 森田尊久会員 2016年11月16日

- 会員の誕生祝い
- 安藤賢一会員
 - 横山俊夫会員
 - 清水宏明会員



- 奥様誕生祝い
- 横山俊夫会員 奥様 雅美様
 - 矢野清久会員 奥様 綾子様
 - 大崎克之会員 奥様 千穂美様

会長報告 須山文夫会長

①クラブ細則変更の提案

第1条第1節

(現行) 役員 次年度副会長 2名 → (変更案) 1名
 次年度理事 5名 → 2名
 (奉仕・青少年奉仕)

第2条

(現行) 管理主体は会員15名 → (変更案) 11名
 選挙された5名の理事 → 選挙された2名の理事
 副会長2名 → 副会長1名

会員数が現在44名で小回りのきくクラブの活性化に伴いCLPという手法を使い11名という形にさせていただきたいと思えます。

また説明をさせていただきますが奉仕理事の下に職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、今迄の奉仕がなくなるわけではございません。小委員会として存続する形で進めさせていただきたいと思えます。

細則改正手順ということで第14条に基づき令和元年10月30日付けで規定委員会で検討されました。そして理事会に上提されました。本日理事会を11時より開催させていただきました。理事会で承認させていただきました。本日例会に御出席の皆様3分の2以上の賛同が得られましたら細則が改正されることとなります。こちらで決をとりたいと思えます。

改正案の開始日は令和2年7月1日、猪狩年度開始日からとなります。賛同の方は拍手をお願いします。

【拍手多数】

これで改正ということで進めさせていただきます。

②ロータリー米山記念奨学会より米山功労クラブとして感謝状が届いております。個人としても米山功労者感謝状も届きましたのでお渡ししたいと思います。炭谷博功会員、水口 衛会員、磯田 稔会員、伊藤佳子会員、猪狩佳亮会員



③11月7日に川崎市より40年以上やっている1月4日の献血事業に対して献血推進事業として表彰いただきました。私と横山会員で出席させていただきました。



④ガバナー事務所より来年の6月6日から10日にかけて行われる国際大会の中で7日(日)ハワイ・ホノルルのHYATT REGENCY HOTEL地下1階キリンレストランにて地区ナイトが行われます。是非参加したい方はマリーンクラブにお申し込み下さい。皆さん、国際大会に参加してみたいはいかがでしょうか。よろしくお願ひします。

⑤インターアクト年次大会開催のお知らせがきております。掲示板に貼りだしてあります。

幹事報告 八尋匡彦幹事

①回覧

台風の被害に対する寄付金ボックス
 3クラブ合同親睦夜間例会の出欠 (11/27 18時30分)
 年忘れ家族会の出欠 (12/18)
 他クラブ例会変更

②ポステイング

本日の卓話のレジュメ 2点
 2019-20年度入会候補者ご紹介表 (11月、12月の月間テーマみんな違ってみんな良い大師を目指して新会員候補者をお待ちしております)



出席報告

猪狩佳亮会員

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2248回	44	39	22	17	56.41%
2246回	44	44	44	0	100.00%
前々回の修正 メークアップ			0名	修正出席率	100.00%



本日のニコニコのテーマ

「特定非営利活動法人 Leaning for All

石神駿一様、川崎大師ロータリークラブへようこそ
お越しくございました。

本日の卓話をどうぞ宜しくお願い致します。」

布川 浩会員、秦 琢二会員、牛山裕子会員
竹中裕彦会員、鈴木昇二会員、星野祐治会員
松井昭三会員、猪狩佳亮会員、中村眞治会員
伊藤佳子会員、野澤隆幸会員、出井宏樹会員
内田省治会員 合計22,000円

スマイルレポート 星野祐治副会長

川崎中央RC 関 進様

昨日は牛山ガバナー補佐にはお世話になりました。久しぶりにメイクにきました。

安藤賢一会員

①誕生日祝い戴きました

②先日、キリスト教の洗礼式、初めて見ましたので。

横山俊夫会員

誕生日ありがとうございます。

八尋匡彦幹事

石神駿一様、本日はようこそお越し下さいました。本日は楽しみにしています。宜しくお願いします。

須山文夫会長

1. 石神様、卓話よろしくお願いします。
2. 先日RLI参加致しました。充実したRLIでした。皆様もご参加お願いします。
3. いよいよ寒くなってきました。お身体ご自愛下さい。

委員会報告

●親睦活動委員会 秦 琢二委員長

・11月の例会受付担当は青少年奉仕委員会です。青少年奉仕委員会の方には12時前に来ていただければと思います。よろしくお願いします。

・年忘れ家族会 12月18日(水)18時点鐘 横浜ベイシエラトンホテル&タワー 本年はビンゴ大会復活します。本数は少ないですが、豪華賞品のあるビンゴ大会です。是非多数のご参加をお待ちしています。豪華賞品が家に眠っている方は随時寄付の受付をしております。ご協力お願いします。

●青少年奉仕委員会 布川 浩委員長

11月9日(土)牛山さんのところでカレー例会を行いました。大盛況でした。皆さん、ご協力、ご参加いただいた方ありがとうございました。

川崎大師ローターアクトクラブの例会のご案内です。11月19日(火)19時30分から東門前の事務局で行います。内容はケルビン幹事による中国語勉強会です。中国語に興味のある方は是非ご参加下さい。登録料は無料です。是非お気軽にご来訪下さい。

水口 衛会員より

先日10月31日弊社85周年の祝賀会にご参加くださった皆様ありがとうございました。

あのような会は私たち会社の人間も初めてのことでしたのでどういう流れでいったらいいのかをいろいろ悩んでいましたが、無事におわりましたのでご報告させていただきたいと思います。本当にご出席いただいた方々がありがとうございました。



卓話



NPO法人 Leaning for Allからまいりました石神駿一と申します。

人生の大先輩の皆様方の前でお話をさせていただくのは大変緊張をしているのですが日本のこどもの貧困という話をさせていただければと思っています。

こどもの貧困に本質的解決をと掲げている非営利活動の法人です。生活保護世帯の子どもたちに対して多少の学習支援、学童のような居場所支援をしている団体です。2010年から活動していて東京都北区でやっていた学習支援は北区改革クラブベスト1という賞をいただきました。2017年度には日本一のNPOであるということを毎日新聞さんから評価していただきエクセレントNPO大賞をいただきました。代表の李炯植がフォーブスの名物企画 30歳以下の世界を変える30人「30 UNDER 30」に選ばれるなどニュースウィークというところで経営者向けの連日のインタビューがなされたりとか、大和証券さまなどと一緒に事業をさせていただいております。中田社長は葛飾の私たちの現場にお越しいただいて、このこどもの貧困という課題は証券会社の我々がこれまでもうり貪ってきたその影に、そのかげを作ってきたという自負がある。だからこそこの課題を解決しなければならない課題であり利益もそういった子どもたちの貧困に充てるんだということを声を高らかにいっていただいて3年、NPO法人やらせていただいております。外資系企業だとゴールドマンサックス様、新しいモデルづくりのような形で関わっていただいております。全国銀行協会、全国友好協会、北海道から沖縄まで各地方にある銀行さんの集会に呼んでいただき会員銀行様の前でこどもの貧困についての講演を先々週させていただきました。いろいろところで普及啓発活動をさせていただいております。私はずっとこういった教育系こういったこどもの貧困に対していたわけではなく、社会人1年目の新卒のキャリアは電通というところでキャリアをスタートしました。そこでキャリアを形成しいろいろな企業の方々という

卓話者の紹介 伊藤佳子プログラム委員長



石神駿一様

特定非営利活動法人 (NPO法人) Leaning for All

コミュニティ推進事業部 事業部長

昭和62年11月13日生まれ 32歳

素晴らしい内容で卓話をお願いしております。どうぞよろしく申し上げます。

ろ繋がって仕事をさせていただきました。もともと高校の先生になりたいという強い思いがありました。高校の先生になって皆様のように社会に出て行ってリーダーとしている、そういう社会人の方を紹介できるような教師になりたいと思い人脈をつくるために電通に入りました。そろそろ教師になろうと思っているタイミングで教育のことについていろいろ調べてみたら、たまたまこどもの貧困ということにぶちあたりました。私は高校教師になりたいと思いました。でも高校にすら進学できないこどもがこの国にはたくさんいるということをはじめで知ったんです。高校に進学できない、高校に行って学びたいけれども家庭の経済的な事情で高校に行く事が出来ない、そういうこどもたちが東京都には毎年1,000人以上います。その現状を知らずして教師になりたいといっている自分がすごく恥ずかしかったですし、そういう子どもたちの底上げをしない限り教育というものは成立しないのではないかと思い私は電通の社員で働いていましたがNPOの職員として転職しようと思いを固め年収の3分の1以下に落ちましたが今ここで職員としての活動をしています。

こどもの貧困ということですが、皆さん頭の中で浮かぶ絵を思い浮かべて欲しいんです。どんな絵が浮かんでいますか？子どもの貧困といった時に私もかつてそうでしたが、海外のこどもの写真がずっと浮かんでいたんです。アフリカの子どもたち、東南アジアの子どもたちだったり、そういう子どもたちの絵がいつも浮かんでいました。こどもの貧困といった時に先進国と発展途上国では扱う浄財が違います。こどもの貧困には2種類あります。絶対的貧困と相対的貧困、一発でどうみてもこの子は生活が苦しいだろうなとわかる状態は絶対的貧困です。アフリカとか東南アジアのストリートチルドレンの子どもたちは絶対的貧困にあたります。先進国に関しては相対的貧困というのが適用されます。日本の国民、世帯平均年収をご存知でしょうか？だいたい400万円ちょっとなんです。世帯平均年収の半分以下で暮らしているような子どもたちが貧困の子どもたちというふうに認定されます。金額にすると母ひとり、子ひとりで月に14万円以下で暮らしている子どもたちは貧困の子どもたちです。そんな子どもたちがこの国にどれだけいるか。7人に1人もいます。この川崎エリアでいうともう少しこの人数は多いです。そのような子どもたちが当たり前にいるというのがこの国の現状です。数でいうと280万人います。こういったこどもの貧困、この7人に1人という数字は問題になるような数字なのか、世界的に見たらどうなのか、ちょっとわかりにくいと思います。OECD加盟国の先進国加盟国と比べてみると先進国加盟国はこどもの貧困率13.3%です。日本のこどもの貧困率13.9%です。GDP世界3位のこの国において世界の平均より高いんです。これが事実です。さらに一人親世帯でかぎって見た時に日本のこどもの貧困率は一番右です。一人親世帯になった瞬間に貧困の子どもたちは半分を超えてしまうんです

ね。片親だよねという子どもたちを100人集めたら50人以上が貧困ということになります。さらに母子家庭の家庭に限ってみると貧困率は66%まで上がるんです。もしかしたら皆様の会社でシングルマザーで働かれている方がいらっしゃるかもしれません。シングルマザーの家庭の方100人集めたら66人が貧困なんです。それがこの国の現実なんです。GDP世界3位のこの国においてそんな状況にあるというのは非常に恥ずかしい話です。世界的に見るとものすごくばかにされています。経済大国、経済推進国といわれそんな社会的保障、福祉ができていないなんて馬鹿なんじゃないの。あいつら頭悪いね。世界中から笑いものにされているのが現実です。こういった貧困はどういったところに繋がっていきなぜおきるのかということ親の収入が高ければ高いほどこどもの学力が上がるという傾向があります。東京大学に通っている学生の親の年収は1000万円を越えるということはよく聞く話だと思いますが、親の収入がこどもの学力に与える影響は非常に大きい、教育格差は進学格差にも繋がってきます。一般家庭の大学進学率は70%です。対して生活保護世帯の大学進学率は30%くらいです。大きな差が出ています。進学格差から大学格差が明らかに繋がっていきます。最終学歴毎の生涯年収を比べてみると中卒と大卒は生涯に稼げるお金が1億円ほど差が出てきます。最終学歴によって賃金が変わってくるということは今の時代を生き抜く上では非常に重要視されているポイントであるかなと思います。こういう話をするときよくいわれます。その貧困の話はわかるけど親が働いていないからわるいんじゃないか、親が働けばいいじゃないか、親を働かせろそんなことをききますがこちらをごらんください。同じくOECDのグラフですが一人親世帯の就業率を並べたものです。日本が一番右ですが85%を越えていてOECD加盟国の中で就労率は一番高いんです。一人親世帯では世界では一番働いている国です。日本は。にも関わらず母子世帯の母親の就労率85%とかなり高い数字です。66%の世帯が貧困なんです。働いても、働いても貧困だとワーキングプアに陥ってしまっているのが現状です。何で？仕事沢山あるじゃない。と思われるかも知れませんが。今度ハローワークとかにぜひ行ってみたいと思うのですがハローワークに人がむちゃくちゃ並んでいます。その中には大卒資格を持ってらっしゃる方々や専門職をもっている方、大勢います。そんな中で中卒、もしくは高校中退の女性の方々に与えられる仕事というのは殆ど無いんです。時給950円のアルバイトとかそういうものしかなくなってくるんです。なので働きたいけれども働けない、定職につきたいけれど定職につけない、定職につける良い条件の話があったとしてもその仕事をやりながら一人でこどもを育てられない、そういう状況に追いやられている、というのが多いというのがこの国の現状なのです。こういった貧困は連鎖してきているのが課題になります。親が貧困だとこどもの学力が低くなる傾向にあります。最終学歴が低いままだと低賃金で働い

て今度はその親がそのこどもに引き継がれていく、そのような負のスパイラル、負のサイクルがまわっているのがこの現実です。ある中学1年生の女の子がいった事が今だに頭の中に残っていて衝撃的でした。中学卒業したらどうするの？と私がきいたんです。その子がこういいました。「私は中学を卒業したらガールズバーで働いて生活保護をもらう」といったんです。14歳の女の子がそうやっていうんですよ。なんでそうなるんだろうと、答えはすごくシンプルです。「だってお母さんも、おばあちゃんもそうだもん」そういうことなんですよね。自分が育った環境でしか自分の将来をなかなか見定められない、それ以外の選択肢は誰か外部が与えてあげない限り狭い世界の中でしか生きられなくなっている。そういうように貧困というのは連鎖していくというのが大きな課題なのではないかなと我々は思っています。とはいえ、どんな環境にいても努力次第だ、俺も若い頃は貧乏だった、それを這い上がって何とか成功させて頑張ってきた、そうおっしゃる方大勢いらっしゃいます。そしてそれ自体は純然たる事実だと思えますし、それに対して否定するつもりは一切ございません。ただ頑張りたくても頑張れない環境にいる子どもたちがむちゃくちゃ大勢いるんだということも同時にご理解していただくとありがたいです。親の暴力が借金、そういったもので勉強したくてもできない、頑張りたくても頑張れない子どもたちがこの国には大勢いるというのが事実です。

また別の女の子の話ですが中学一年生になるまでに名字が4回変わってしまったという子がいます。家に帰るとお母さんが若い男の人を家に連れ込んでいていちゃいちゃしている。その女の子は自分が邪魔者であるということを知っているからお母さんとその男の人の邪魔にならないようお母さんとその人がいい感じになってきたら夜中1時とか2時とか関係なく外に出てぶらぶら時間を潰しコンビニを徘徊したりドンキホーテを徘徊したり公園を徘徊したりして2、3時間時間を潰して朝方に帰る、そこから寝ておきるともう昼過ぎ、学校には行っていない、そのような状況の女の子がいたんです。その子は男性という存在に対して非常に大きなトラウマ、精神的な障害をもっており男の人が目の前に立つと身体が硬直して動けなくなってしまふんです。過去のお父さんたちに思い切り殴られたり、蹴られたりという理由があるみたいですがごく大きなトラウマをかかえてしまっているんです。身体を動かそうと思っても動かず、声を出そうと思っても声がつまってしまう、そういう状態で私は毎週、毎週その子と会っていました。僕の目を見て話をしてくれるまで1年半かかったんです。それくらい大きなトラウマを抱えていました。その子は僕は学習支援をしていいたんですが毎週水曜日、土曜日、週2日間1年中学学習支援をしていいたんです。水曜日の学習支援は夜8時に終わるんです。殆ど皆集団下校で帰ります。集団下校で帰る時に皆の家を近くをまわって帰るのですが、僕は公民館の部屋を借りてそこで子どもたちに勉強を教えてい

ます。公民館の横にある都営住宅にその女の子は住んでいます。集団下校で帰るなら一番最初に帰れるはずなんです。でも頑として私は一番最後がいいといいはる。それはなぜ？家に帰りたくないんです。家に帰ると言うことはその子にとって苦痛なんです。もう少しみんなと一緒にいる時間が欲しい。もっと自分が信頼する人と一緒にいる時間が欲しい、だからわがままをいって私は最後に良い、で、まわってきて最後にまた来週ね！というとぼくをひっぱっていくんです。もう1周まわろう。自分の家なのに帰りたくない、安心、安全な環境でない、自分の家に住んでいる大人が信頼できる大人ではない、その状況はむちゃくちゃ苦しくくないですか？その子にとって信頼できる人、何人いるかわかりません、そんな環境のこどもに対して頑張りということとは簡単かも知れない。でもそれって暴力かも知れない。

そういう環境におかれた子どもたちは実際にどういうレベル間の学力なのかをお持ちしました。

中学2年生になったその子に、中2の秋です。解いてもらった英語の問題です。アルファベットの大文字を書きなさい。アルファベットのAからZがかけていないんです。アルファベットの小文字を書きなさい。はじめからわけのわからない記号が並んでいます。要はアルファベットの書けない子が英語の問題を解けるわけがない。そういう状態の学力レベルでした。

次に数学です。同じ時期に解いてもらいました。分数の計算問題です。小学校5年生で習う問題です。4問中1問しか正解できていない。小学校5年生で習う内容が中学校2年生の秋になっても修得できていない状態のまま放置されているというのが現実です。ちょっとイメージして欲しいです。こういう学力の子たち、アルファベットの読めない、書けない、数学の少数、分数の計算のできない子がそのまま社会に飛び出していった時に、あえてこういう言い方をします。その子たちは自立して生きることができのでしょうか？皆様は経営者の方が多いかと思いますが自分の会社で社員として雇える？雇えますでしょうか？積極的に雇いたいと思いませんか？おそらく答えはNo！だと思ふんです。使い物にならないと思ふんです。「君、この商品 タイムセール50%引きにしておいて」「50%引きってなんですか？」ってレベルなんです。使いものにならないでしょ。そうすると自立して生きることが非常に難しい状況に陥ってきます。なので我々は最低限自立して生きられるだけの力を備えつけさせる必要があると思ふそういう子には学習支援を提供させていただき、この子は今立派に高校3年生になっております。将来保育士になるといっていて、保育士の専門学校に行くために高校1年生からずっとやっていますが毎日毎日アルバイトをしてお金をためて、専門学校に行くためには学校の内申点も高くしないといけないからといって学校の試験も頑張って成績もつねに良い成績をキープしていて4月から専門学校に通うことをイメージし頑張っています。

そんな子どもたちがこの国には280万人います。努力したくても安心安全な環境がない。信頼できる大人がない。そんな子どもたちが大勢いるのがこの国の現状です。貧困というのは経済的な何かだけではないということです。経済的に貧困、経済的な問題であれば貧困家庭にお金をあげればすむんです、でもそれでは絶対に解決しない。なぜか？

人との繋がりだとか、学ぶ環境だとか、育まれる環境を複合的に補う、折り重なって我々はこうして大人として社会で活動できています。そういった貧困というのは社会課題を複雑骨折している。これが全部こどもにしわ寄せがきている。こういった課題だと私は思っています。こどもの問題は制度の問題に直結します。生まれた地域や家庭環境によってこどもの可能性が大きく左右されているのが現実です。我々も税金とかそういったものにも大きなインパクトがでできます。教育というものを投資循環型のモデルと捉えることが出来ます。例えば小学校、中学校、高校に国公立に通う場合は授業料は無償になります。それは我々の税金から子どもたちの教育費にまかなわれて小中学校無償化で勉強を学ぶ事ができています。その無料で学力を国から授けてもらった若者が社会に出て労働するときに税金という形でお金をもどす。教育にお金をだした、その子が成長して国にお金をまわす、戻してくれる、そして次の世代の子どもたちの教育に使われる、投資循環型のモデルなんです。しかし生活保護を受給される方々は小学校、中学校の時に国からお金が出て行く。さらに生活保護となったらさらにお金が出ていく。一生帰ってこないモデルになってしまうんです。そうすると国からの支出がどんどんどんどん増えていきます。それが積み重なっていくと43兆円という国の大きな負債を抱えることになっていきます。ただでさえ皆さんも10年後、20年後自分の生活がどう変わっているのか不安に思っている方もいらっしゃるかもしれません。金融庁が2000万だ何だといっています。20年後少子高齢化社会になった時に税金どうなっているのかがすごく不安です。それにプラスして43兆円という莫大な負債を抱えていた時、この国はどうなっていくのだろうか。私共のこども世代、皆さんには孫世代が本当にいきいきと生きることが出来る世界が作れるのだろうか、このままだと非常に危険だと思っています。赤信号だと思っています。早いうちに手をうたない限りこれは手が付けられない、そういう大きな問題に発展すると思っています。誰かがやらなければいけないそんなふうに強く思いました。教師になりたいと思いつつながら電通で働いていたぼくですらこういった課題は全く知りませんでした。とすれば、教育というものに関心がない人たちにはこういった課題は全く触れる機会もない。知らないかぎりアクションをおこせない。こうやって普及啓発していくひとがいらない限りこの課題は一生解決しないなと思いました。なので人生をかけてこうして皆さんの前で話をさせていただいています。

我々は何をしているのか。目の前のこどもへの支援と全国のこどもを救うためのしくみづくりの2つを主にやっています。

目の前のこどもへの支援として学習支援と居場所支援、学習支援は大学生のボランティアによる子どもたちへの個別指導学習支援をしています。年間1000名以上の子どもたちを学習支援しています。生活保護世帯の子どもたちを中心に無償で公民館や学校の空き教室、体育館に子どもたちを集めトレーニングした大学生の子たちが勉強を毎週毎週教えてくれています。3ヶ月間のプログラムに区切って春夏秋冬と1年中子どもたちに学習支援を届けるプログラムを継続して9年間ずっとやっています。どんな学力の子どもたちでも必ず学力はあがります。それは大学生たちがとても優秀であるというのはもちろんあるのですが、どんなに学力の低い子どもたちでもその子のペースにあった速度でその子の信頼感をつかんでいけば必ず学力が上がるということ子どもたちから毎回教わっています。子どもたちは等しく可能性がありその子に応じた速度できちんと併走してあげれば必ずその可能性が広げられる。そういう可能性の塊なんです。そのことを私たちは信じて疑いません。これまで7000件以上の生活保護世帯の子どもたちを支援してきました。そして高校進学率は100%。

居場所支援ですがこれは平日毎日やっている活動で小学校低学年に向けての学童保育のような居場所支援です。一般的な居場所支援、学童と違うところは夜9時までこどもを預かることです。夜9時までというのは一般的な学童に比べてはるかに長いです。一般的な学童は夕方5時に終わるのがほとんどです。想像してみてください。シングルマザーのお母さんとこどもひとりそういう家庭で生活しています。そのお母さんは朝こどもを学校に送り出す。

家事を終わらせ家のことを終わらせてよし仕事に出ようと思いつつ仕事にでます。一般的な学童だと夕方5時に終わってしまうので5時には家に帰っていなければならない、もしくは迎えにいかなければならない。そうすると1日に働ける時間は3時間か4時間しかないんです。時給1000円もらったとしても一日4000円しかもらえない。すると月に80000円しか稼げない。すごく苦しいです。そういう環境になりがちなんです。経済的な困窮、そして時間の無さ、相談できる人の少なさ、そういうものがこどもに暴力という形で向かっていくケースも非常に多いです。だれにも相談できない。お金の余裕もない、ぱーっと飲みに行くそんなこともできない、だからどうしてもなくてイライラしてこどもをぼこぼこにしてしまう。そういう親御さんは我々が支援してこどもを預ける場所の確保、僕らのいる目の前でこどもをぼこぼこにするくらいこどもを激しい方でした。でもその方も僕らが夜9時までこどもを預かって食事支援、食事も提供してあげることを行っている内にちょっとずつ精神的に余裕が出てきたりとか経済的に余裕が出てきたりとかしながら、いまで

はいっさい暴力振るうことはなくなってきました。そのように居場所支援を通して子どもだけでなく親御さんも含めた包括的な支援を毎日やっているのが拠点になります。ここに来ている子どもたちはかなり状況があげつない状況の子どもたちが本当に多いです。今迄生まれてきてから1種類の食べ物しか食べたことのない子がいました。その子が食べてきたものは何か？ごはん、醤油、お湯、マヨネーズそれをまぜてぐちゃぐちゃにしたものしか食べたことがない子がうちに来ています。その子は小学校に入学して何がおきるか？生まれてはじめて給食を通して肉、魚、野菜を食べるんです。どうなると思いますか？生まれてから6年間1種類の食べ物しか食べていなかったんで身体が対応できない。その場で吐いてしまうんです。そんなのが毎日繰返されると同級生も先生も何この子？となります。結果、いじめられて小学校3年生ですが月に1回行けるか行けないくらいしか学校に行けていません。その学校に行くのも体育の時間とかに我々居場所支援の職員が手をつないで外からみるとかしかできない状況です。そういうこどもは本当にいるんです。ぼくも支援をはじめるとはわかりませんでした。が本当にいるんです。家の中に時計がない。だから時計の針の読み方もわからない。お風呂に入る習慣がないからお漏らしした状態で2週間そのまま、着替えもしていない。パンツにカビがはえている、そのままはいている。そういう子もきています。歯を磨いたことがない、歯磨きのトレーニングを一緒にしたときに歯磨き粉を付けてぱっと洗ってガラガラとしてペッと出すんだよといって横をみたらゴクンと飲んでるんです。歯を磨く経験がないから、そういう子どもたちが本当にいるんです。その子たちに対して毎日の生活支援やお箸はこうやって使うんだよとかご飯を食べる前に手を洗うんだよとか外でどろんこになって一緒に遊んで一緒にシャワーをあびて汗流して気持ちいいねという体験を一緒にしたり、そういう日常生活、最低限のレベルの生活を送れるようなトレーニングを毎日毎日やっています。目の前の子どもたちの支援、とっても大切です。それがないと今みている子どもたちはおそらく自立に向かないから、とっても大切です。同時に、これはあくまで目の前に見えている課題に対して絆創膏をはる、そういう仕事しかないと思っています。傷口から血が出ている、だから絆創膏をはりましょう、でも傷口はどンドンどンドン新しく出来てきている、一生終わらない、じゃあどうしたらこの課題は終わるのか、傷口がうまれない社会を作らないといけない。傷口がうまれない社会を作るためにはどうするのか？大学生の育成とモデルづくりです。大学生の育成ですがありがたいことに毎年1000名以上の大学生がボランティアに関わりたいと応募をしてきてくれています。その大学生たちが東大、早稲田、慶應みたいな優秀な学生たちが半分くらいを占めるそういう母集団なんです。そんな彼等優秀な大学生たちは比較的裕福な家庭で育った子たちが多いです。慶應の幼稚舎あがりだったりとか、

ずっと世田谷住まいだったりとかそういう裕福な家庭の大学生たちが多い、ほっておいたら一般企業、良い会社にどンドン入っていく、そんな彼等が自分と真逆にいる環境の子どもたちと毎週対峙しているんです。自分が支援しているこども、この前のこどもは夏休みがすぎれば過ぎるほどどンドンやせていくぞ、何でだ？と思うわけです。

何故か？給食がないからです。家でご飯を食べていないの？食べてるとしたら何を食べてるの。家で昨日は何を食べた？ときくポテトフライ、カップラーメン
うわあ、本当か！自分と明確な違いをそこで感じていくわけです。そうやって子どもの貧困ということ自分の言葉で語れるようになった者がいろいろなところで活躍してくれています。そういうふうには貧困という課題に対してフォローする人も現場はボランティアの学生や我々だけでなく色々なところで声を上げる人たちを育てています。実際には一般企業に入る人たちがほとんどです。官僚になる人たちも毎年必ずいます。教員として就職する人も多いですが例えば文科省には毎週かならずいます。文科省にいった先輩官僚、自分よりはるかに上の先輩官僚を引き連れて現場に出てきて、春から政策を作るといっているけれどこどもの貧困について語れる人はどれだけいますか、貧困の現状はわかっているんですか。わからずに政策をするのは意味がないことではないですか？それは自己満足でしょ。まずみにいきましょよ、といて僕たちの現場に官僚を大勢連れてきてくれてます。こういうアクションを作れる若者を育てているというのが一つです。日本中でこういった火種をおいていてこの国全体で解決すべき課題だという発信をすることが一つです。

もう一つはモデルづくりです。僕たちが活動している拠点を北海道から沖縄まで全国に広げていくというやりかたはあるかもしれませんが。ただそれをやるには完成するまでに何十年かかるのかわかりません。遅すぎるんです。であれば、全国展開可能な支援のモデルづくりをしてそのモデル自体が全国に勝手に広がっていくしくみをつくりたいと思っています。まさにロータリーさんもそういう仕組みのかもしれませんが。だれか一人が1つ1つエリアで広げていくというのではなく1つ形ができてそれを、ロータリークラブというかたち自体が全世界に広がっていったと思うんです。モデルを作って広げていくということにコミットしていきたいと思っています。国の責任でないかといわれます。その通り！国の責任だと思えます。でもいつかでは遅いということが事実であるからこそ日本初のモデルを作って当たり前にしていきたいという強い思いがあります。

最後になります。支援の必要な子どもたちがまだまだいます。活動する中で気づいたことは何か熱く語っていた人がいたよね、頑張っている人がいたよねで終わらせてはだめだと思っています。自己責任とかかわいそうで終わらせるのではなく向上意識をもってアクションをする

人を増やしていきたいと思っています。世界課題に対して関わる人を増やしその関わる人、アクションする人を増やしていきながら課題解決をする仲間を増やしていきたいと強く思います。こどもは世界の今後の未来のかたまりなので多くの大人が、多くのこどもを支えるそんな世界に対峙していきたい。我々は今助成金に頼って活動していますがこれから助成金もなくなってしまいます。助成金今年度4500万円が確実に消えます。2年後には残りの1.5億円の助成金も確実に消えます。この活動を継続するためには少なくとも7000万というお金が4月までにないとこの活動は継続できません。7000万の内訳でいうと100万円の大きな寄付が16個、そして月3000円のサポーターが集るとこのお金になります。なんとかこういう仲間を集めて活動していきたいと強く強く思っています。お金がなくなると目の前の子どもたちを見捨てるしなくなってしまう。ぜひ仲間になっていただけるとありがたいです。募集内容として3000円あればこどもに1日分の学習支援を届けることが出来ます。是非継続的なサポーターになっていただけるとありがたいです。お配りさせていただいたリーフレット裏のQR CODE 2分で登録できますので是非ご検討をいただけるとありがたいです。

大きな紙を配らせていただきました。こちらは寄付の控除が適用できる案内です。年末の時期になりましたので納税額が確定してくる金額が近づいてきているかとおもいます。国にお金を納めるのであれば思いのある寄付という形で税金を納める分をこちらに回していただけるとありがたいと思います。控除をうけると40%ほどお金が戻ってきますので是非ご検討いただければと思います。是非我々の仲間になっていただければと思います。NPO法人Learning for Allでした。貴重なお時間をありがとうございました。



謝辞 須山文夫会長

卓話ありがとうございました。非常に熱く語っていただきまして最後にもおっしゃられていましたが、熱く語っているやつがいたよということで思い出だけでなくこれから、私は大変申し訳ないなと思ながらもっと人を沢山呼んでもっときていただきたかったと。本来でしたらこの地区にIMという勉強会がございます。そこで講演をやっていただいてもいいような講演であったのにもったいない気がしました。私も今日は目から鱗、自分が今迄何も知らなかったんだなということを感じさせていただきました。お金という支援ももちろんございますがそれ以外でもこれを知る、知っていただくという活動もやはり協力出来たらと思います。明日、この地区の会長幹事会がございます。そこで少し宣伝をさせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

●閉会宣言並びに点鐘 須山文夫会長

日時：令和元年11月27日(水)は
夜間移動例会です。

卓話：3クラブ合同親睦夜間移動例会
18：30～

川崎日航ホテル 12階「西・中の間」



船山 佳則／布川 浩／秦 琢二

